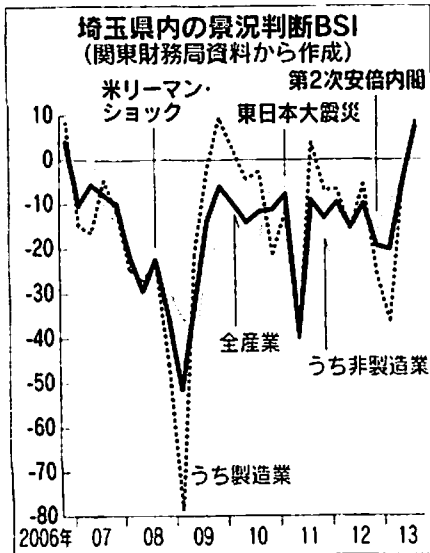


県内7~9月12.8ポイント上昇

景況、全産業プラス

販売価格下落が弱まる

財務局



アボテクノの売上高は前年実績を上回って推移 (埼玉県上尾市)

関東財務局が11日発表した法人企業景況予測調査によると、埼玉県内の2013年7~9月期の景況判断指数(BSI)はプラス7.4で、前回調査(4~6月期)比で12.8ポイント上昇した。全産業ベースのBSIがプラスに浮上するのは2006年10~12月期以来。製造業、非製造業ともにプラスで、県内企業の景況感が勢いを増している。

BSIは景況が前期に比べ「上昇」と答えた企業の割合から「下降」を差し引いた値。8月中旬に調査を行い、341社から回答を得た。BSIを業種別にみると、製造業がプラス8.7で、非製造業がプラス6.7。製造業では自動車・同付属品や情報通信

機械が、非製造業では建設や小売業が好調だった。景況感の改善要因として「販売価格の動向」を挙げる企業が増えており、価格下落基調に歯止めが掛かりつつあることがうかがえる。県内企業からも足元の好調ぶりを裏付ける声が聞かれる。

自動車部品の一つで、液体の漏れなどを防ぐガラスケットを製造するアボテクノ(上尾市、渡辺勇雄社長)の今年4~8月の売上高は前年同期比で約1割増えた。昨年10月~今年3月の3割減から一転した。住宅建設の藤島建設(川口市)も、今上半期の受注件数が前期比で約15%伸びており、佐藤善之社長は「消費増税前の駆け込み需要の勢いはすごい」と話す。

企業規模別では、資本金1億~10億円未満の中堅企業の改善ぶりが目立つ。中堅企業のBSIはプラス35.3で、資本金10億円以上の大企業(21.3)を10ポイント以上上回った。全国ベースでは大企業が中堅企業を上回るもの、県内では中堅企業の景況感が強いがある。資本金1000万~1億円未満の中小企業もマイナス7.8で、前回調査からマイナス幅を6.5ポイント縮めた。

BSIは全産業ベースでプラス6.8。プラス幅は7~9月期をやや下回るものの、プラス水準を維持するとの見方が強い。景況感の改善が続くことを織り込み、全産業ベースの13年度の設備投資計画額も12年度を10%以上上回る見通し。20年夏季五輪の東京開催が決まり、都市開発などで県

内企業にプラス効果が波及するとの期待感もある。政府は10月1日に発表される日銀の全国企業短期経済観測調査(短観)を見極めたうえで、来春の消費税率の引き上げ実施を判断する方針を示している。今回の調査結果で日銀短観も改善が予想される。